

戦時中に使われたランドセルを触る児童
＝玉名市



玉名市の玉名町小の6年生約120人が23日、長崎への修学旅行を前に平和への理解を深めようと、戦時中の衣服や学用品を通して当時の生活や玉名の戦争の歴史を学んだ。

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワークの高谷和生代表(67)＝同市＝らが講

戦時中の暮らし実感

玉名町小児童ら

師を務めた。高谷さんは、玉名市内から長崎原爆のきのこ雲が見えたというエピソードを話した。



太平洋戦争中の従軍看護婦の装備を着る児童

＝玉名市

ソードを紹介。米軍による空襲により、旧日本陸軍大浜飛行場に隣接した住宅地も被害を受け、「1歳の子どもなど多くの住民が亡くなった」と話した。

当時使われていた軍服や空襲サイレンなど資料約100点の展示もあり、兵隊を描いた筆箱や爆弾型の消しゴムなど、戦時中の子どもたちが使用した学用品が児童の注目を集めた。

紙や布で作られたランドセルを触った川口琳夢君は「すごく軽くて、大きさは今のランドセルの半分ぐらいだった」と驚いていた。

(丸山伸太郎)